

国

語

(60分)

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かず、  
左記の注意事項をよく読むこと。

### 注 意 事 項

- 1、問題冊子は、22ページまであります。
- 2、解答用紙は問題冊子の中央にはさんでいます。解答はすべて、解答用紙に書き込みなさい。
- 3、始め、の合図でページ数を確認し、受験番号・名前を書きなさい。
- 4、問題の内容についての質問には、いっさい応じません。印刷のはっきりしないところがあれば、静かに手をあげなさい。
- 5、時間を知りたいときも、静かに手をあげなさい。
- 6、具合が悪くなったり、トイレに行きたいときは、手をあげて監督の先生の指示に従って行動しなさい。
- 7、問題冊子は、各自持ち帰ってよろしい。



① 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

「社会について考えることは大切だ」。

「社会的な視点から、社会的な問題に関心をもたなくてはならない」。

「自分のことだけでなく、社会のことも考えなくては……」。

私たちは子どものころから、こうした言葉を繰り返し聞かされてきた。親や教師はもちろん、テレビや新聞で社会について解説する学者や文化人、社会的な視点から発言するタレントや芸能人、政治家や企業経営者から近所や親戚の人びとにまで、社会について考えることの大切さを、入れ代わり立ち代わり説かれ続けてきた。

国語の作文や社会科のレポート、入試の小論文や就職の面接等で、こうした「社会への関心」や「社会的視点」が必要とされるのは言うまでもない。社会について考えること、社会的な視点を持ち、社会的な問題に関心をもつことは、私たちが生きるこの社会では、正しいこと、必要なことであるようだ。

だが、なぜ社会について考えなくてはならないのだろうか？

一つのありうる答え。それは、人間は一人で生きているのではなく、社会の中で他の人びととともに生きているから、というものだ。君は一人では生きていけない。君の存在は両親、友人、地域の人びとをはじめとするたくさんの人びとの営みの中ではじめて可能になるのだし、君もまたそうした人びとの中で一定の役割を果たしうるのだ。そのためにも社会について知り、考え、社会に対する自覚と責任をもつことが大切だ、というわけだ。

この答えは間違っていない、<sup>①</sup>正しい答えである。

だがしかし、正しいことや正しい答えがいつも、この私にとってリアルで腑に落ちる答えというわけではない。確かに私は一人（＝独り）では生きていない。私を含めたたくさんの人間がいる中で、私を含むさまざまな人間の営みが「社会」と呼ばれる広がりを作り出し、そこでいろいろな問題が起こっていてもいる。それはその通りだ。けれども、だからといって「社会のこと」、たとえば少年犯罪や少子高齢化や\*第三世界の貧困や地球規模での環境破壊についてあなたも考え、そのこと

に一定の責任と自覚をもつべきだと、いきなり言われたらどうだろう。「それはそうかもしれないけれど、それはちよつと……」  
と言う人は、決して少数派ではないだろう。

私もまたそのように言われたならば、「それはちよつと……」と言ってしまふ一人である。社会学者として問われたならば、  
うは言わないかもしれないけれど、生活者としては、少なくとも心情的、感覺的に、「それはちよつと……」と思ってしまう。

②「それはちよつと……」と私が思うのは、そうした問題がこの社会を私たちが生きることを通じて生み出される「社会的な  
問題」であることが理解できないからではない。理解することはできる。だがそれは、私が今現にこの社会を生きること  
と、どこか\*位相を異ことにしているように感じる。少なくとも、そのことについて真剣しんけんに考え、責任をもち、対処しなくとも私  
は日々の暮らしを送っていくことができる。そのような問題については政治家、行政担当者、研究者といったしさかるべき専門  
家たちがいるのだから、日々③の暮らしの中ではさしあたりそうした専門家たちに任せておけばよい。だから私は、職業的な研  
究者として私の専門領域にかかわる問題については、専門家としての責任においてそれに答えるけれど、生活  
者としては必ずしもそうではないのである。「社会学者」であることと「生活者」であることをこのように区別するのは二枚  
舌④ではないかと言われそうだが、そのことについては【補説】を読んでほしい。

たとえて言えば、次のような感じである。今、人工衛星か宇宙ステーションにでも乗って、宇宙空間から地球を見てみると  
しよう。そのとき、眼下あるいは頭上に浮かんだ地球の姿を見て美しいと思ひ、美しく見えるその地表で人びとが争うこと  
や、環境を破壊しつつあることを、限りなく愚かおろかでただちに克服こくふくすべきものだと強く思ってしまうかもしれない。実際、宇宙  
空間から地球を見て帰ってきた宇宙飛行士は、しばしばそういう内容の発言をする。そうした言葉を聞くと、私は何かとても  
居心地の悪い思いがする。地球を外側から見たとき、そのように感じてしまうのはわからなくもない。だがその一方で、ひと  
たび地球の上に立って日々の営みの中に身を置くととき、この私にとってリアルなのは、目の前の具体的な他者との争いや対立  
であったり、便利さや安楽や快楽であったりすることだろう。どちらの感覚が正しいと言うことはできない。異なる場所、異  
なる視点に立ったとき、世界は異なる\*様相ようそうをとって現われ、それに対する私やあなたの感覚や思考も異なるということであ  
るにすぎない。

ここで指摘しておきたいのは、社会について考えるときのこの落差、外側から地球を見ることと地上に立って周囲を見ることとの間に存在するようなこの落差こそが、社会という場をめぐる社会的な経験の一つの形であるということだ。人はしばしば、そのような落差とともにある場所として社会を生きる。その落差がないふりをして「社会的な問題」について我がこととして考えようというのは、じつはそうした落差自体の社会性に目をつぶること、したがって本当には社会を見ていないということなのではないか？ 正しい答えには、正しいゆえの罨がある。まっすぐに社会的な問題に向かいあう人たちがから見ると屁理屈の言い訳のように聞こえるかもしれない。だが、これもまたまぎれもなく、現代における社会という経験の一つの形である。

ここでは、こうした落差の経験も一つの焦点として、社会について考えてみよう。私たちがまぎれもなくその中を生きていながら、それとの間にどうしようもない落差や隔たりをときに感じてしまう場所としての社会について、考えてみたいのだ。なぜ社会について考えるのかという疑問に対する可能な別の答え方には、次のようなものもあるだろう。

「社会について考えることは役に立つから」。

A 何の役に立つのか。商売の役に立つ。将来設計の役に立つ。損しないために役に立つ。 B、なんらかの意味で役に立つことのために役に立つ。

金融制度について知り、考えることは経済活動や金融系企業への就職の役に立つかもしれない。少子高齢化について考えることは、自分の将来設計や新たな市場開拓のために役に立つだろう。都市問題について考えることは公務員になるために役立つかもしれないし、自分の暮らす地域の将来のために役に立つかもしれない。差別について考えることは、差別のないよりよい社会を作るために、 C 自分自身が差別のある世界を生き抜いていくために役に立つだろう。社会について考えることは、しばしばいろいろな意味で社会生活上の役に立つ。これは間違いない。

私も、社会学者として自分が考え、言葉にしたものがなんらかの形で他の人びとの役に立てば嬉しいとは思う。 D、私自身は何かの役に立つから社会について考えたり、それをめぐる言葉をつづつたりしているわけではない。ではなぜ、別に誰から頼まれたというわけでもないのに、私は社会について考えているのだろう。簡単に言えばそれは、社会について考え、何

かが明らかになってゆくことが、ある喜び<sup>⑦</sup>の感覚を与えてくれるからだ。では、なぜ知ることが喜びなのか。それは、私がこの社会を生きているとはどのようなことなのか、人が社会を生きるということはどういうことか、私たちがそこで日常的に営んでいることや、そこで直面する問題が、どのような仕組みで存在しているのかを知ることが、「私」と「世界」についての視界をよりクリアにしてくれるからなのだ、と言えるかもしれない。

もちろん、いくら考えたからといって、これですべてわかったということは多分ない。<sup>\*</sup>孔子や古代ギリシアの時代から少なくとももう二五〇〇年くらいは、人間は世界や社会について学問として考えてきた。それでもわからないくらい、世界や社会も、そこを生きる人間も、<sup>⑧</sup>「わからなさ」に満ちていて、その「わからなさ」の中を、ときにその「わからなさ」を自覚しつつ、けれどもたいていはそうした「わからなさ」を取り立てて問うことなしに、「わかったこと」にして多くの人は暮らしている。社会について考えることは、何かについてわかるより先に、まずはこの「わからなさ」に気づき、それについて問うことから始まる。そして、この「わからない」ということは、普通の意味では何の役にも立たないことだ。

たとえば、人はなぜ「神」という形も明確な<sup>\*</sup>対象性ももたないものを作り出し、それを畏れ、それに従ってきたのか。そもそも「神」というものに具体的な事物のような対象性がないのだとしたら、神を敬い、信じ、神に従うとき、人はいったい何を敬い、信じ、何に従っているのか。あるいはまた、人はなぜときに他の人間の命令や指示に嫌だと思いつつも従ってしまうことがあるのか。それ自体は紙切れや金属のメダルにすぎない貨幣が、なぜ価値あるものとして使用され、流通するのか。しかも、食べ物も衣服も、土地も、労働も、ジェットコースターに乗る楽しさや歌声まで、じつにさまざまに異なるものや出来事が、この紙切れや金属が示す価値で等しく計られ、売り買いされてしまうのはなぜなのか……などなど。

これらの「問い」には簡単に答えることはできないし、なんらかの答えにたどりついたとしても、その答えは多分、普通の意味で「役に立つ」答えではない。にもかかわらず、そのような問いに気づくこと自体が、私たちの生きる社会や世界について知る、一つの知り方である。私たちが通常それとして問うことのないさまざま営みや出来事が、さまざま謎に満ちたものであることを知ること。それは一つの驚きの経験である。そのとき、<sup>⑨</sup>日常の風景は、それについて考えるに値するものとして現われてくるだろう。そして、その謎について考えることは、私が生きる世界や社会について、そしてまたそれを生きる

私たちについて、より深い了解や認識に達するということだ。ちょうど山登りで苦しい坂道を過ぎ、頂上ではないけれども展望の開けた場所に出たときに、そこに広がる新たな視界に新鮮な驚きを感じるような興奮と感動が、確かにそこにはある。

(若林幹夫『社会学入門 一步前』による。なお、設問の都合上、小見出しは省略した。)

(注)

\* 第三世界……アジア・アフリカおよび中南米などの開発途上国。

\* 位相を異にしている……ここでは、次元が異なっているということ。

\* 様相をとって……ありさまになつて。

\* 孔子……紀元前五五〇〜紀元前四七九年。古代中国の思想家。

\* 対象性もたない……ここでは、何を指すかが定まらないこと。

問1 傍線部①「正しい答え」とはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分のことだけを考えるのではなく、社会的な問題に関心を持つことが正しいことだからだというもの。
- イ 学校の勉強や就職の面接において、社会的な視点が必要とされるのは言うまでもないからだというもの。
- ウ 我々は一人では生きていけないので、地域の人びとの考えを尊重しなければならぬからだというもの。
- エ 人間は多くの人びとの関わりの中で生きているので、社会に対する自覚が求められるからだというもの。
- オ 人間も地球上で暮らす生物の一種であり、環境を守ってゆくことに責任を持つべきだからだというもの。

問2 二重傍線部 a、b、c の本文中での意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

a 「腑に落ちる」

ア 興奮させる

エ 興味をひく

イ 実現できる

オ 都合のよい

ウ 納得がゆく

b 「しかるべき」

ア 信頼しんらいできる

エ 重々しい

イ たくさんの

オ それにふさわしい

ウ すぐれた

c 「二枚舌」

ア 片方のみが成り立つこと

エ その時しか通じないこと

イ 矛盾むじゆんしたことを言うこと

オ どちらも事実でないこと

ウ 良さをほめたたえること

問3 傍線部②「『それはちよつと……』と私が思う」とはどういうことですか。その一例の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 少年犯罪の問題が話題になっていることは知っているが、それを社会の問題として責任を問うと、当事者である少年の責任があいまいになってよくないと感じるということ。

イ 少年高齢化の問題が社会全体の課題であることは分かるが、まず専門家が取り組むべきことがらであり、いきなり個人が責任を問われるのは筋違いすぢちがだと感じるということ。

ウ 第三世界に貧困の問題があることは確かな事実だが、それは自分が所属している社会とは別の国の問題なのだから、自分が責任や自覚を持つ必要はないと感じるということ。

エ 地球規模での環境破壊が起こっていることは理解できるが、個人でできることは微々びびたるものなので、企業や行政の責任において取り組むべきことがらだと感じるということ。

オ 社会的な問題に対して社会学者としては責任を感じるが、生活者としての責任があるわけではなく、日々の暮らしを送る上では気にする必要はないと感じるということ。

問4 傍線部③「日々の暮らしの中ではさしあたりそうした専門家たちに任せておけばよい」とありますが、そのように言えるのはなぜですか。次の【補説】を踏まえて、その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

【補説】専門家であることと、生活者であること

専門家に何かを任せきってはいけない。専門家ではない市民もさまざまな問題に関心をもつべきだし、専門家も市民の声に耳を傾けるべきだ。こうした言葉がマスコミや市民運動にかかわる人びとの口からしばしば発せられる。そうした言葉の言わんとすることが、目指すべき理念や理想としては「正しい」ことを私は否定しない。

だがしかし、私たちが今生きている社会では、きわめて\*多岐にわたる専門化した領域に対し、そうした専門の知識に通じていない人びとが関心をもったり、意見を表明したりすることはきわめて難しい。そもそも専門化とは、多くの人がそのような知識や関心をもちえないような高度な科学や技術を可能にし、それについてほとんど（あるいはまったく）何も知らなくともその成果を\*享受できる知識のあり方なのだというのも、動かしがたい社会的事実である（このことについては本書第8・9章も見てほしい）。社会学者としての私は、私たちが今暮らす社会がそのような社会であるということ、たかだか社会学の専門家にすぎない私もまた、他の領域については一介の生活者として明確な判断も意見も必ずしももちえない素人にすぎないということを、社会学的な事実として認めている。だから、冒頭に述べたような意見は、正しいけれどもときに現実性をもたない意見なのだ。

社会について考えようとするとき、私たちにとっての課題は「意見をもつこと」ではなく、まずは「現実を知ること」である。私たちがどのように世界や社会とかかわっているのかという「現実」を知ることなくして、社会の中に存在するさまざまな「現実」にどうかかわりうるのかということについての現実的な意見をもつことはできない。

\*多岐にわたる……色々な面に関わること。

\*享受……受け取って自分のものにする事。

ア ある分野が専門化して高度な科学や技術を実現すると、一般の人びとは知識がなくてもその成果を享受できる一方で、意見を表明することは現実的ではなくなってしまうから。

イ 社会の問題に対して、一般の人びとも関心を持ち専門家とともに考えるべきだというのは、マスコミが作り上げた理想論による市民像であって、現実の人びとは社会問題に興味がないから。

ウ 一介の生活者である多くの一般の人びとにとっては、たとえある領域では専門家であったとしても、自分には直接関わりのない社会的な問題について論じるのは、難しいことだから。

エ 社会的な問題を考える上では、一般の人びとも専門家と意見を交換すべきだという考えは正しいが、専門家なみに高度な知識や技術を身につけようとする人は、ごくわずかしかないから。

オ 高度で複雑化した現代の社会的な問題に向き合うのに、専門化された知識を十分に持たない一般の人びとが問題を考える必要はなく、専門家に任せておいた方がよい結果に結びつくから。

問5 傍線部④「この落差」とはどういうものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 外側から地球を見たとき、紛争や環境の問題が起きている所からあまりにも遠くへだたっているがゆえに出てくる宇宙飛行士らの意見は、目の前にあるその問題に立ち向かう地上の人々にとっては、他人事のような感覚でふりかざされる理想論のように感じられて反発してしまうというもの。

イ 外側から地球を見たとき、地球にいたときとはあまりにも異なる自分達の星の姿を目にして衝撃を受けている宇宙飛行士らが抱く紛争や環境への思いは、落ち着いた日常生活を生きる地上の人々にとっては、気分の盛り上がりが大きすぎてついていくことのできない感覚に思えるというもの。

ウ 外側から地球を見たとき、自分の特権的な立場に気をよくして地球のことが何でもわかってしていると誤解した宇宙飛行士らの紛争や環境に関する助言は、問題解決の手法を実地で身につけてきた地上の人々にとっては、あまりにも的外れで押し付けられても困ってしまうというもの。

エ 外側から地球を見たとき、地表の細々としたことが見え、全体があまりにも美しい一つの姿として見えるがために宇宙飛行士らが抱く紛争や環境に対する考えは、実際的な問題に向き合う地上の人々にとっては、自分たちの実感とはかけ離れすぎていて容易に賛同できないというもの。

オ 外側から地球を見たとき、ものすごく美しい地球の姿とリアルな人間世界とのギャップを理解したことからなされる宇宙飛行士らの紛争や環境に関する発言は、限定された視野しか持たずに地球の真の姿に気づかない地上の人々にとつては、容易に信じられるものではないというもの。

問6 傍線部⑤「正しい答え」には、正しさゆえの「畏」がある」とはどういうことですか。「〜ということ。」に続くように、六十字以内で説明しなさい。

問7 傍線部⑥「それ」が指す内容として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア リアルで具体的な目の前にいる他者
- イ 異なる立場の人びとが持つ感覚や思考
- ウ 社会について考える時に生じる落差
- エ 社会的な問題に真剣に向かいあう人びと
- オ 私たちがまぎれもなく生きている社会

問8 空らん部 A D に当てはまる語句として最も適当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。な

お、同じ記号を繰り返し返して使うことはできません。

- ア だがしかし
- イ では
- ウ あるいはまた
- エ だからこそ
- オ ようするに

問9 傍線部⑦「ある『喜び』の感覚」の具体例として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 外国語について考えることで、日本語の特徴とくちように気づくことができた。
- イ 車の運転技術や交通標識を学ぶことで、免許証めんきよを取得することができた。
- ウ 年金問題について考えることで、衆議院議員選挙に当選することができた。
- エ 振り込め詐欺さびざきについて学ぶことで、なりすまし電話を見抜くことができた。
- オ 再生可能エネルギーについて考えることで、新商品を開発することができた。

問10 傍線部⑧「そうした〱わからなさ〱を取り立てて問うことなしに、〱わかったこと〱にして多くの人は暮らしている」と

はどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア わからないということに気づかず、わかった気になって暮らしているということ。

イ わからないことがあっても尋ねず、そのままにして暮らしているということ。

ウ わからないことから目をそらして、わかったふりをして暮らしているということ。

エ わからなくても問題にせず、そのままでよいと考えて暮らしているということ。

オ わからないのが当然であって、そのことをわかって暮らしているということ。

問11 傍線部⑨「日常の風景は、それについて考えるに値するものとして現われてくる」とはどういうことですか。「〱ということ。〱」に続くように、七十字以内で説明しなさい。

問12 本文の表現と構成の特徴の説明として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「宇宙飛行士」など、具体例を数多く挙げて分かりやすくしている。

イ 〱役に立つこと〱など、注意が必要な語に〱〱を施ほどこしている。

ウ 問題を提起して答える形式で論を進めながら、考察を深めている。

エ 身近な比喩ひゆを多用することで、親しみやすい文章になっている。

オ 一般的な考え方と自分の考え方を述べて、違いを明確にしている。

② 直江は、若くして棋士（将棋のプロ）になったが長年の間昇級できない。ある日、師匠の師村に頼まれ、年少者の将棋指導に熱心な川村が天才だと評価する小学生、拓未に会った。これに続く次の文章を読み、後の問いに答えなさい。なお、字数制限のある問いは、記号や句読点も字数として数えます。

「拓未くんは将棋が好きか？」

漠然と問いかけてみた。

拓未は質問には答えず、背負っていたリュックを座布団の横に置きながら言う。

「先生もおっちゃんに言われて僕を説得に来たんだね」

なるほど一筋縄では行かない少年であるらしい。関西弁を使わないのは、大人と話しているからなのか、本心を隠しているからなのか。しかし、直江の前があつたというのは初耳だった。

「他に会った人がいるのか？」

「うーん。松井とか言ってた気がする。確か段位は七段で……」

「松井先生か」

松井敬史七段。京都在住の棋士で年のころは確か四十年代後半だったはずだ。痩せねずみのように貧相な顔付きをしているが、温和な性格で、子供や奨励会員に対しても腰が低く、業界内外を問わず多くの人に慕われている。\*大盤解説の折には聞き手の二回り年下の女流棋士に対しても敬語で話すことで有名だ。二十代の頃に\*B級2組まで行ったが、現在は下がり調子で直江と同じC級2組までクラスを落としている。後進の育成に熱心で、プロになった弟子は四名を数える。確かに川村が拓未を託すのであれば、師村ではなく松井に話を持っていくのが筋であろう。

「松井先生はなんて？」

「なんか知らないけど、怒って帰っちゃった」

拓未はリュックからスマホを取り出し、指先でスワイプしながら答える。私の松井が怒ったなんて話は今まで聞いたことが

ない。

「一体何をした」

「あの人、手を抜いたんだ。わざと負けるような将棋を指した」

拓はき捨て、責めるような口調である。松井先生はアマチュア相手の指導将棋では、\*駒落ちであれ平手であれどうにかして自分が負けるように持つてゆく人だ。アマにとつて最高の自慢はプロに勝つことで、それが生涯を通して将棋と関わり続ける強い動機になることをよく知っているのだ。棋士の細やかな気配りがあるからこそ、将棋というゲームはここまで長く続いている。直江はその辺りのことをやんわりと説明した。しかし、拓未は「違うね」と言う。

「僕は言つてやつたんだ。次の対局、あなたに負けたら弟子になつて棋士を目指します。でも、僕が勝つたなら、棋士を引退してくださいってね」

「先生は何て」

拓未はゆつくりと首を振つた。

「直江先生は、松井七段のことを勘違いしてるんだよ。あの人はアマと本気で指して負けるのが怖いんだ。だから、わざと負けようとする」

④ 仏も怒つて帰るわけである。そんな形で松井先生に断られれば、京阪神で師匠を引き受けてくれる棋士はひとりもいなくなる。師村に声をかけたのにはそうした背景があつたのだ。しかし、たとえ顔を潰されても拓未に棋士の道を歩ませようとする川村に、どこかいじらしささえ感じてしまう。天才少年という概念にはそれだけの魔力が宿つているということか。

拓未が\*弟弟子であつたなら叱り飛ばしていかもしれない。しかし、今は川村から依頼を受けた第三者なのだ。直江は拓未にしばらく待つように言い、店外に出て道沿いの自販機で缶コーヒーと拓未に渡すオレンジジュースを買う。

再び二階に戻ると先ほどまで感じていた苛立ちが収まるのと同時に、子供を相手にする時の緊張も消えていた。拓未は一人の将棋指しとして今日ここに来ている。子供の扱い方はよくわからないが、将棋指しのあしらい方は心得ているつもりだ。

「いくつか\*棋譜を見させてもらったよ」

そう切り出すと拓未の大きな耳がひくひくと動いた。

「奨励会で言うところの初段ぐらいやな。まあ、奨励会という場所は魔界じみたところがあるから、実力があつたとしてもそこまで上がれるかはわからないけど」

「初段……」

不服そうな声を漏らす。元三段の川村と指し分け、県代表を獲った者に対する評価として低過ぎると考えているのだろう。ただ、直江がそう評価するには相応の理由がある。

「今から懸命に取り組み続けて俺が保証できるのはB級2組までと言ったところだな。松井先生のところではなんて言われた？」

「最低\*三冠。川村のおつちゃん七冠って言ってるけど」

拓未はそう言って口を尖らせた。松井先生も川村も随分と気前のいいことを言うものである。

「三冠王となると揃えるタイトルによつては一億円プレイヤーや。時代を代表するスター棋士と言っていい。でも聞くところによると君はそういったものになりたくないらしいな」

拓未は待ち構えていたかのように、大きく二度頷いた。

「棋士は儲からないんだ。トップで年一億以上稼げるプロスポーツなんてたくさんある。億なんて、\*トレーダー、実業家、芸能人にとつてみたらゴミ屑みたいなものだよ。今時、ユーチューバーだつてそのくらいは稼いでる。将棋界の人たちは世間を知らないんだ」

収入的に魅力的ではない、ということらしい。一億円の十分の一のさらにその半分にも届いていない自分の年収を顧みて頭が痛くなった。

「まだあるよ」

拓未は手を広げ、指を折って得意げに微笑む。

「そもそも将棋って、世界とか社会とかのために役に立ってるの？ お医者さんは人の命を助けてくれるし、政治家は国を動

かすし、起業家は世の中に新しい考え方を示してくれる。けど、棋士は何をしてくれるの？」

直江は答えに窮した。そもそも人生に将棋ありきという前提で生きてきている自分の中には存在しない視点から攻めてきたからだ。

やっとのことで「松井先生はどう答えた？」と返す。

「歴史の授業を聞かされた。\*インド、江戸、大橋、伊藤がどーたらこーたらって」

実に松井先生らしい返答である。拓未は直江の顔を覗き込むように顔を傾け「で、直江……先生の答えは？」と聞いてきた。一旦外に出て心を落ち着かせてはみたが、相も変わらず腹立たしく憎らしい子供である。この少年相手に簡単に誰でもわかるような言葉で説明する必要はない。いつも酒の場で 剛力たちに話しているような持論を語ればいい。

「将棋はひとつの国にたとえることができる。将棋に興味を持つ人は誰でもその国に入っていけるんだ。でも、興味のない人にとつて将棋の国はないも同じ。将棋人口は広く取って現在七百万人程度。棋士はそれぐらいの人たちのために将棋を指している。松井先生が歴史の話をされたのは、将棋が今現在生きている人々だけのものではないからだろうね。過去、現在、未来。時間を縦に足し合わせると膨大な数の人が将棋の国の住人ということになる」

「将棋の国の外側の人たちは？」

「興味のない人にとつて棋士はいないも同然、幽霊みたいなものだ。でも幽霊だって黙って見ているわけじゃない。うらめしやくと存在をアピールして幽霊の国を広げて行こうとする。君みたいないわゆる天才少年ってやつは特大のお化けみたいなもので、上手く嵌まれば将棋の国の拡張に大いに貢献してくれるだろうね」

拓未は小さく「ふうん」と鼻を鳴らした。

「さつき先生は過去、現在、未来の話をしたけど、将棋に未来はないと思うな」

「どうして？」

「人間はもうコンピュータに負けちゃったんだよ。世界で一番強い指し手になるって目標は壊れてしまったんだ。それに、科学がもっと進んだら将棋の必勝法だって見つけれちゃうかもしれない。それからもうひとつ、頭の中にチップを埋め込める

ようになってしまえば、カンニングし放題で本当に誰が強いかなんてわからなくなってしまふんだ」

⑧ 小学五年生であるにもかかわらず、拓未の口からは次から次へと新しい知見が繰り出される。直江は特に驚きはしなかった。自分自身は口の回らない子供だったが、周りには口から先に生まれてきたような子供が多かった。将棋を指す者はおおむね(A)八丁(B)八丁に育つ。

それに拓未の話の組み立ては即興のものではなく、よく調べ、何度も繰り返し返されている雰囲気があった。無理矢理に棋士を指さない理由を見つけてきているようなのだ。

これ以上話しても、説得するのは無理だろう。元々そういう事柄は直江の領分でない。口でなんとかするのなら、川村がとつくに丸め込んでいる。

⑨ 店舗の金ピカの掛け時計を見ると、川村が出て行ってから一時間が過ぎていた。子供の屁理屈に抗することが出来ず何の成果も上げられなかったというのでは格好がつかない。

「指すか？」

直江が問うと、拓未は無邪気に「うんっ」と返事して座り直した。

(橋本長道『霸王の譜』による。)

(注)

\*奨励会員……棋士の養成機関である奨励会の会員。

\*大盤解説……将棋の大会などで、将棋盤を模した大きなパネルがある別室で、対局の解説を行う催し。

\*B級2組……棋士のランク。上位から順にA級、B級1組、B級2組、C級1組、C級2組の五つのランクがある。

\*駒落ちであれ平手であれ……「駒落ち」は力量の差があっても対等に戦うためのハンデとして、上位者の駒を一部取り除いて勝負すること。「平手」は駒落ちなしで指す普通の将棋のこと。

\*弟子……同じ師匠に後から入門した後輩。

\*棋譜……将棋で、対局の手順を記録したもの。

\*三冠……将棋界の八つのタイトルのうち、三つをとること。

\*トレイダー……株取り引きの仕事をする人。

\*インド、江戸、大橋、伊藤……将棋はインドに源流があると言われ、江戸時代に大橋宗桂そうけいや伊藤宗看そうかんが活躍かつやくした。

\*剛力たち……直江の棋士仲間。

問1 傍線部①「一筋縄では行かない少年であるらしい」とありますが、直江がこのように感じた理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 将棋が好きはずなのに、直江の質問に答えようとしなかったから。

イ 背負っていたリュックを下ろし、リラククスしたようすだったから。

ウ 先生と呼びながらも敬語は使わないところに、対抗意識を感じたから。

エ 問いかけには応じないで、直江が会いに来た目的に話を変えたから。

オ 川村に対しておっちゃんというなれなれしい呼び方をしているから。

問2 傍線部②「二回り年下」とは何歳年下なんさいということですか。漢数字で答えなさい。

問3 傍線部③「川村が拓未を託すのであれば、師村ではなく松井に話を持っていくのが筋であろう」とありますが、川村が棋士たちに拓未を託す意図は何ですか。「〽意図。」に続くように、本文中から適当な表現を二十字以内で探し、初めと終わりの五字ずつを抜き出して答えなさい。

問4 傍線部④「仏も怒って帰るわけである」とありますが、直江が考える、松井が帰った理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 松井は、相手に自信を持たせるためにあえて負けようとした自分の氣遣いきづかをふみにじり、真剣勝負をすべきだとして挑発ちやうはつ的な取引を持ち出す拓末の思い上がりに、我慢がまんできなかつたから。

イ 松井は、将棋の面白さを知ってほしいとの願いから勝たせようとした自分の配慮はいりよを、本気で挑いどんで負ける恐怖きょうふのために手を抜いたと思ひ込んでのしる拓末の言葉に、腹を立てたから。

ウ 松井は、後進を育てるつもりで拓末と対戦しようとした自分の思いやりに気づかず、やる気がないから自分とまともに勝負しないのだという拓末の決めつけに、いきどおりを覚えたから。

エ 松井は、子供に負けるはずがないと手加減しようとした自分の判断を、子供だと思い不当にみくびつたがゆえの愚かおろなうぬぼれだとして責めたてる拓末の発想に、あきれ果てたから。

オ 松井は、なんとかして将棋の魅力を伝えようとする自分の情熱を受け取らないばかりか、あわよくば棋士生命を危機に追い込んでやろうとする拓末の意地の悪さに、嫌気いやげがさしたから。

問5 傍線部⑤「大きな耳がひくひくと動いた」とありますが、このときの拓末の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の棋譜を調べられていたことが意外で困惑こんわくする心情。

イ 自分の将棋の力が高く評価されるだろうと期待する心情。

ウ 自分には将棋の才能がないと言われるのを心配する心情。

エ 自分に無断で棋譜を見ていたことを知って反発する心情。

オ 自分を説得するために何を言い出すのかと緊張する心情。

問6 傍線部⑥「この少年相手に簡単に誰でもわかるような言葉で説明する必要はない。いつも酒の場で剛力たちに話しているような持論を語ればいい」について、次の問いに答えなさい。

(1) この時の直江の考えはどのようなものですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 素直に大人と向き合おうとせず、将棋とともに生きる棋士の生き方を軽んじるようなことばかりを言う拓未には、こちらも丁寧に対応してやるのをやめて挑発的な態度で応じるのが適当であるというもの。

イ 将棋に関して大変な知識があり、難解な用語もある程度理解できる拓未には、簡単な言葉を選んで伝えなくても、いつも大人が議論しているような言葉づかいで話しても十分に伝わるに違いないというもの。

ウ 松井に対する態度のみならず、直江に対しての態度も相変わらず憎たらしい拓未には、遠慮なく大人が議論するような本気の内容で返答することでプロとアマの実力の差をわからせる必要があるというもの。

エ 松井による歴史を踏まえた味わい深い話を聞いても、考えを改めることなく頑固に自分の意見を曲げない拓未には、わかりやすい説明よりも一風変わった角度からの話の方が説得力を持つだろうというもの。

オ 将棋を指すことにはふれず、年収や社会貢献度の低さといった現実的な問題をずけずけと論じる拓未には歩みよってやる必要はなく、将棋そのものに対する直江自身の考えを率直に述べればよいというもの。

(2) 「持論」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 将棋は七百万人もの愛好者があり、さらに外国にも広めてゆくことで、日本の文化を発信することができる。

イ 将棋はひとつの国のようなものであり、棋士はその国の政治家にあたるので、国を動かすという役割がある。

ウ 将棋は興味を持つ人のためには意味があり、歴史的に多くの人々が楽しみ、現代も愛好者を増やそうとしている。

エ 将棋は日本の伝統的な文化であり、これを過去から未来へと継承してゆくには、棋士の力が必要不可欠である。

オ 将棋は幽霊みたいなものであり、一見価値がないように思えるが、多くの人の興味をそそる魅力的なものである。

問7 傍線部⑦「特大のお化けみたいなもの」とありますが、「天才少年」のどのような点が、実際の世界において「特大のお化けみたいなもの」だと言えるのですか。「く点。」に続くように、三十字以内で説明しなさい。

問8 傍線部⑧「(A) 八丁 (B) 八丁」とありますが、(A) (B) に当てはまる漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問9 傍線部⑨「指すか?」とありますが、直江は拓未と将棋を指すことで何をしようとしているのか、八十字以内で説明しなさい。

問10 本文から読み取れる拓未の性格や態度として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の将来を決めなければならぬことを不安に思う子供らしい部分がある反面、直江の説明の矛盾点を指摘したり、将棋界の将来を見通したりする大人びた部分も持ちあわせている。

イ 将来は棋士の道に進もうと心を決めているが、天才少年だ、最低三冠だと周囲の大人から高く評価されるのが気恥ずかしく、棋士は目指さないと暗に示す思わせぶりの態度をとっている。

ウ 将来的に将棋の道に進むことを考えると、将棋界の問題点について繰り返し調べずにはいられない心配性なところがある一方で、面と向かって大人に意見を言う大胆さも持っている。

エ 川村と指し分け県代表も獲ったという華々しい実績があるにもかかわらず、それを正当に評価しようとしていない直江に対し、怒りにまかせて屁理屈を並べ立てるような幼稚なところがある。

オ 棋士の道を薦めてくる周囲の大人に対しては反抗的な態度をとっているが、自分の将棋の力量には自信を持っており、将棋を指すことを素直に喜ぶという将棋好きな一面も見られる。

③ 次の傍線部のカタカナを漢字に書き改めなさい。

- ① セイミツ機械を取り扱<sup>あつか</sup>う。
- ② 社会ホシヨウ制度を構築する。
- ③ 世界各国のシユノウが集まる。
- ④ 軍備をシユクシヨウする。
- ⑤ 舞<sup>ぶ</sup>台<sup>たい</sup>でシヨウメイを担当する。
- ⑥ 太平洋をコウカイする。
- ⑦ チヨメイな人物に会<sup>あ</sup>う。
- ⑧ カザイを全<sup>ぜん</sup>て売<sup>ばい</sup>り払<sup>はら</sup>う。
- ⑨ 判断をホリユウする。
- ⑩ エンメイ治<sup>ち</sup>療<sup>りょう</sup>の相談<sup>そうだん</sup>をする。

